Ⅳ 鶏

1 改良の取組と成果

(1) 鶏をめぐる情勢と改良の取組

・鶏改良による能力の向上、飼養・衛生管理技術の改善は、生産性の向上に大きく貢献。

○養鶏経営における技術の進展と生産性の向上

	卵用鶏		肉用鶏		鶏改良	飼養管理技術
	日産卵量(g/羽)	1戸当たり成鶏めす羽数(羽/戸)	49日齢時生体重(kg/羽)	1戸当たり出荷羽数(羽/戸)		
昭和30年					・外国鶏の輸入自由化	・ｹｰｼﾞ飼育の普及
40年	33.3	26		3,488	・鶏改良事業の開始	・ｳｲﾝﾄﾞｳﾚｽ鶏舎の開発
						・鶏用ﾜｸﾁﾝの普及
50年	40.6	230	1.67	34,621	・ﾌﾞﾛｲﾗｰ専用種の普及	・ｵｰﾙｲﾝ・ｵｰﾙｱｳﾄ方式の導入
					・凍結精液技術の開発	
60年	48.9	1,037	2.41	92,057		
					・在来鶏等の改良の活発化	
平成元年	49.6	1,472	2.52	113,956		・飼養管理手法の工夫等(栄養成分強化のための飼料配合等)による差別化の取組が活発化
10年	51.6	26,957	2.65	151,794		
15年	52.2	31,636	2.64	179,140		

資料：1戸当たり成鶏めす羽数及び出荷羽数は、畜産統計及び畜産物流通統計。
　　日産卵量と生体重は、55年以前は生産費調査、60年以降は畜産振興課調べ。
注　：平成10年以降の1戸当たり成鶏めす飼養羽数は、1,000羽未満規模を除外。

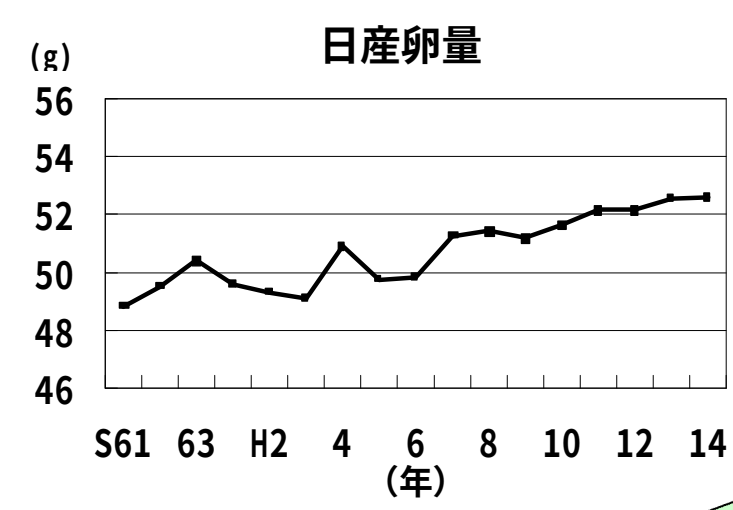
・昭和30～50年代における、鶏改良体制の整備や飼養管理技術の開発・普及により、生産性の向上と規模拡大が大幅に進展

(ウインドウレス鶏舎)

(2) 改良の成果と課題

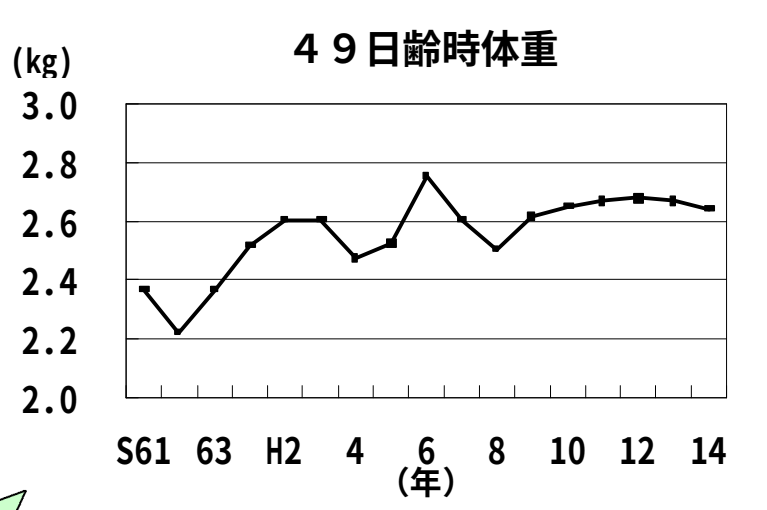
- 鶏の改良は、飼養管理技術の改善と相まって、養鶏生産のコスト低減、体質強化に貢献。

○卵用鶏



資料：農林水産省生産局畜産部調べ

○ブロイラー



資料：農林水産省生産局畜産部調べ

産卵能力・産肉能力は着実に向上

在来鶏を利用した、特長ある鶏づくりの取組が進展

（地鶏肉のＪＡＳ規格認定事業者により生産されている銘柄は、現在１６（平成１６年末：農林水産省生産局畜産部調べ）

奥久慈しゃも、筑波地鶏、やさとしゃも、名古屋コーチン、奥美濃古地鶏、丹波黒どり、紀州鶏、播州地どり、鳥取地どりピヨ、おかやま地どり、岡山桃太郎地どり、阿波尾鶏、はかた地どり、熊本コーチン、みやざき地鶏、さつま地鶏

改良増殖をめぐる課題

- 近年、産卵能力・産肉能力の伸びは鈍化。
- 能力の斉一性、ひな供給能力の不足等の問題から、国産鶏の普及は停滞。

- 低コスト生産を図るため、産卵・産肉能力の改良は今後も重要
- 我が国消費・流通ニーズに対応した、卵質・肉質の改良が必要
- 食料の安定供給の観点からも、国産鶏の改良、増殖・普及の推進が必要

2　新たな目標のポイント

・総合的な経済性の向上
・消費・流通ニーズに対応した卵質・肉質の改良を推進

(1) 改良目標

①卵用鶏

卵重量は現状程度としつつ、日産量等の改善を図り総合的な経済性を高める

	産卵率	卵重量	日産卵量	50%産卵日齢	飼料要求率
現在	８３ %	６３ g	５２ g	１４７ 日	２．２
目標(27年度)	８４	６３	５３	１４５	２．１

注：産卵率、卵重量、日産卵量及び飼料要求率は、それぞれ鶏群の５０%産卵日齢に達した日から１年間における数値

卵質の改良を推進（卵殻強度、卵殻色、ハウユニット、肉斑・血斑等）

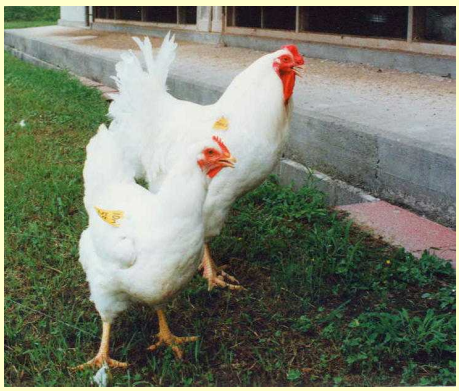
注：ハウユニットとは、鶏卵の鮮度を判定する指標として数値化したもの。
（濃厚卵白の高さ、卵重から算出）

②ブロイラー

総合的な経済性を高めるとともに、改良及び飼養・衛生管理の改善により育成率の向上に努める

	体重	育成率	飼料要求率
現在	２，６００ g （２，７００）	９７ %	１．９
目標(27年度)	２，７００	９８	１．９

注１：体重は、雄雌の49日齢時の平均体重。体重の（　）内は、現状における平均的な出荷体重であり、出荷日齢では51日齢程度に相当。
注２：育成率、飼料要求率は、49日齢時における数値。

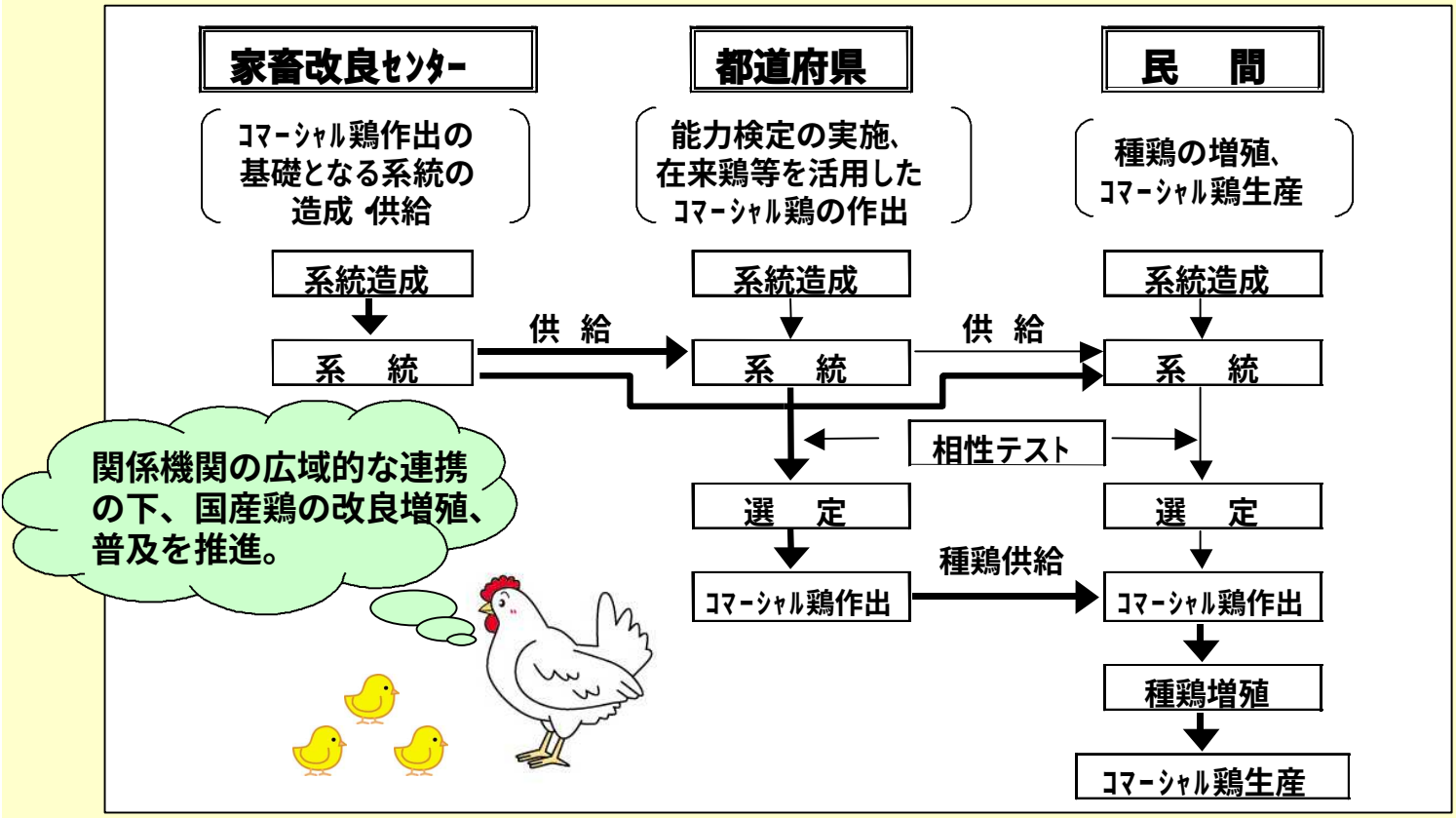


肉質の改良を推進（腹腔内脂肪量、食味関連形質等）

(2) 改良手法

- 特長ある系統の造成とともに、卵用鶏・肉用鶏の組織的な作出及び普及を促進
- 国((独)家畜改良センター)、都道府県、民間の広域的な連携を強化
- 在来鶏の能力検定の推進
- ＤＮＡ解析技術を利用した改良手法及び卵質・肉質の評価手法の確立・利用を推進

○ 鶏の改良体制



(3) その他の取組

- 種鶏、ふ卵、鶏卵並び鶏肉生産段階における適切な飼養及び衛生管理の徹底

(4) 増殖目標

	卵用鶏	肉用鶏
現在(15年度)	179百万羽	105百万羽
目標(27年度)	174百万羽	103百万羽

増殖目標達成に向けて･･･

- 需給動向に即した生産の推進
- 品質の向上による輸入品との差別化
- 生産性の向上による低コスト生産の推進